

～みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり～

《基本方針》

岡垣町では、少子高齢化や核家族化が進み、住民相互のつながりが希薄化するなど、地域や家庭を取り巻く環境は大きく変化してきました。それに伴い、虐待や孤独死、生活困窮者への支援や災害時などに手助けが必要な避難行動要支援者への対応など、様々な地域課題が顕在化してきています。また、住民の福祉サービスに対するニーズは多様化し、従来のような高齢者、障害のある人、子どもなどの対象者ごとに支援する個別の制度の中では、多岐にわたるニーズに十分に対応できない状況が生じています。

このような状況の中、年齢や障害の有無にかかわらず、住民や学校、事業者など地域社会を構成するすべての人々が互いに支えあいながら、多様な主体の結びつきにより、ともに課題を解決していく共生社会づくりが求められています。

そして、多様で複合的な地域生活課題を解決するためには、住民相互の支えあいによる互助の取り組みを進め、自助、互助、共助、公助の連携によって、子どもから高齢者まで、すべての住民が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らし続けることができるような仕組みを作っていく必要があります。

岡垣町社会福祉協議会では、岡垣町の地域福祉計画と一体的に策定した地域福祉活動計画に基づき、高齢者や障害のある人、子どもなど様々な領域を地域の視点でとらえ、住民主体の地域福祉を支援する立場からより効果的な実践に取り組む予定としていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業の中止や縮小をしました。

《基本理念》

みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり

私たちの暮らしの基盤は「地域」にあります。地域の絆、地域での人と人とのつながりや困ったときに助け合える関係、支えあう仕組みづくりが重要となっています。岡垣町では、「互助」のさらなる充実により、地域で課題を解決していく力や地域での支えあい・助け合いの力の底上げをめざしました。支え手側と受け手側に分かれるのではなく、みんなが互いに支えあいながら、自分らしく活躍できる地域を目指し、基本理念を「みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり」としました。

《基本目標》

1. お互いに支えあう「つながり」づくり
2. 地域福祉を支える「ひと」づくり
3. 地域でともに生きる「環境」づくり
4. 誰もが安心して暮らせる「まち」づくり

《基本目標ごとの取り組み》

1. お互いに支えあう「つながり」づくり

私たちのくらしの基盤は「地域」にあります。地域での人々のつながりや支えあい、生活課題の解決に向けた取り組みが一人ひとりのくらしを守り、豊かなものにしてくれます。近所づきあいは、あいさつ程度と希薄化していますが、地域での支えあいや助け合いの必要性は増えています。

支えあいや助け合いを進めるためには、日頃から地域で交流することを通じて、お互いを知り、「お互いさま」と言える関係づくりを進めていく必要があります。地域の人たちが交流し、つながり、そして、支えあい、助け合うことができる仕組みづくりを進めました。

(1) お互いさま命のネットワークの強化

【具体的な取り組み】

■お互いさま命のネットワークの推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■自治区でのネットワーク活動を推進支援し、見守り協力機関含めた重層的な見守り体制づくりに努めました。また、緊急時には地域・行政と連携して迅速に対応しました。

【主な事業】

1) お互いさま命のネットワーク活動の推進・支援

自治区でのお互いさま命のネットワーク活動推進を目的に、活動に関する相談や情報提供など、自治区活動の支援を行いました。

社会的孤立を防ぐ身近な地域での支え合いの基盤となるネットワーク活動を推進支援するため、地域関係者などで構成するお互いさま命のネットワーク委員会での情報共有、見守り協力機関拡大に向けた6事業所との新たな協定締結など、地域での重層的な見守り体制構築に向け取り組みました。

○お互いさま命のネットワーク委員会

令和2年9月24日 いこいの里

委員 自治区長会、民児協、寿会連合会、学識経験者、事業所、学校関係者
福祉団体、行政

○新規見守り協力事業所／6事業所

はなだ電器、はなだ電器中村店、ユキデンキ、響電器、神谷電気商会、西電気

(2) ふれあい交流活動の充実

【具体的な取り組み】

■ふれあいサロンの推進 ■ふれあい交流事業の充実 ■世代間交流の充実

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■住民同士の交流や居場所づくり、健康づくり・介護予防等を目的とした「ふれあいサロン活動」を推進支援しました。

【主な事業】

1) ふれあいサロン活動の推進・支援

少子高齢化や核家族化の進行による住民同士のつながりが希薄化するなか、ひとり暮らし

し高齢者や高齢者のみの世帯等が地域で孤立しがちとなっており、各自治区単位での住民主体の通いの場である「ふれあいサロン活動」を、民生委員・児童委員等の関係者と連携して推進・支援しました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響でサロン活動を自粛、もしくは年度内中止と判断する自治区が多数あったため、そのような状況に配慮して、自治区長宅を訪問し状況把握や情報提供を行いました。

また、社協だよりを活用して新型コロナウイルス禍でも実施できるようなレクリエーションや脳トレを掲載することで、工夫して間接的な支援に取り組みました。

ふれあいサロン活動支援自治区 8自治区（令和元年度 21自治区）

2) ふれあい交流事業の充実

ふれあい交流事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

○在宅介護者のつどい いこいの里

○地域ふれあい交流会「社協夏まつり」 屋内多目的施設すぱーく岡垣

○障がい者クリスマス交流会（障がい児含む） いこいの里

○囲碁・将棋大会 いこいの里

3) おもちゃ図書館の運営

障害のある子どもや親が自由に楽しく遊ぶ場、また、同じ悩みを持つ家族が語り合える場として、おもちゃ図書館ボランティアたんぽぽの会の協力により、毎月第2土曜日及び毎週木曜日（第1・3木曜日3歳までの乳幼児に一般開放）に開館しました。

開館日 37日（うち一般開放 15日）

利用者数

障がい者（児）：延べ98人・乳幼児等：延べ2人

家族等：延べ57人・見学等：延べ25人

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月から7月まで閉館しました。

(3) 地域の多様な支えあいの促進

【具体的な取り組み】

■地域コミュニティ活動の推進 ■生活支援体制の構築

■地域での健康づくり・介護予防活動の推進 ■分野を超えた連携の推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■住民主体の助け合いや、地域と事業所の連携など、公的サービスでは困難な助け合いを推進支援しました。

■生活支援コーディネーターとして本人、地域、事業所をつなぐ役割を担いました。

■町内の社会福祉法人とのネットワークの構築に向けて取り組みました。

【主な事業】

1) 生活支援体制整備事業（町受託事業）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で地域活動の自粛が余儀なくされるなか、社会的孤立が一層広がる傾向にあります。そのため、地域住民とアイデアを出し合い、これまでの地域とのつながりを守るためお互いさまの地域づくりを推進する必要があります。

そのため、地域住民等との話し合いの場開催を含め、生活支援コーディネーターとして、これからの地域福祉活動に必要な地域資源の把握・整理を行うとともに、コロナ禍での地域活動継続を支援するための情報提供や活動支援を行いました。

○話し合いの場開催（第1層・第2層協議体） 令和3年3月27日 いこいの里

地域に顕在化する課題とともに、コロナ禍においても活動している地域の取り組みを共有することを目的に、話し合いの場を開催しました。社会的孤立を防ぐための事例紹介や、コロナ禍での地域活動継続の必要性等、これからの取組に必要なことを協議しました。

- ・アドバイザー 九州大学大学院 人間環境学研究院 教授 高野和良 氏
- ・参加者 46人 自治区長、民児協、事業所など

○自治区での地域活動等の支援

ゴミ出しに困っている方へのゴミ出し支援に取り組んでいる自治区に対し、活動にあたっての課題を共有し、運営方法など先進事例等の情報提供を行うなど、住民主体の地域活動を支援しました。そのほか、ふれあいサロンなど居場所を必要とする自治区の立ち上げ支援や、コロナ禍での地域活動の継続実施のための情報提供を行いました。

- ・生活支援（ゴミ出し支援）／旭中区（海老津校区）
- ・居場所立上げの支援／上畑区（海老津校区）、居場所支援／戸切区（戸切校区）
- ・コロナ禍でのふれあいサロン活動（情報提供） 42 自治区

内浦校区／湯川、波津、原、内浦、手野、新松原

吉木校区／三吉団地、三吉、吉木、高倉、上高倉、元松原、公園通り西

海老津校区／南山田、旭西、旭中、東海老津、新海老津、海老津、野間一、野間二
東高倉、公園通り東

山田校区／山田、山田峠、西山田、東山田、緑ヶ丘、旭南、高陽、百合ヶ丘、鍋田
西高陽、東高陽、南高陽、松ヶ台西、松ヶ台東

戸切校区／戸切、戸切百合野、戸切白谷、上海老津、龍王団地

○岡垣町との連携及び情報共有

本事業を活用して、地域共生社会の実現、校区コミュニティのあり方を模索するため、岡垣町長寿あんしん課、福祉課、地域づくり課、社協に相談支援包括化推進員を配置し、推進会議を行いました。毎月行う予定としていますが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、7回の開催となりました。

令和2年6月4日 第1回生活支援コーディネーター連絡会

- ・・・令和元年度岡垣町相談支援体制整備事業実績報告について 等

令和2年9月9日 第2回生活支援コーディネーター連絡会

- ・・・コロナ禍における生活支援体制整備事業の進捗状況について 等

令和2年10月20日 第3回生活支援コーディネーター連絡会

- ・・・地域で住民主体の移動支援について 等

令和2年11月24日 第4回生活支援コーディネーター連絡会

- ・・・令和2年度話し合いの場の開催について 等

令和2年12月22日 第5回生活支援コーディネーター連絡会

- ・・・訪問型サービスDに基づく移動支援について 等

令和3年1月19日 第6回生活支援コーディネーター連絡会

- ・・・令和2年度話し合いの場の開催について 等

令和3年3月16日 第7回生活支援コーディネーター連絡会

- ・・・地域人材育成講座報告、令和2年度話し合いの場の開催について 等

○その他研修

令和2年7月27日 生活支援コーディネーター連絡会（中間市：ハーモニーホール）

令和2年9月25日 福岡県生活支援コーディネーター初任者研修（福岡市：農村整備

センター)

2) 地域ケア会議への参加

個別事例について、多職種による専門的かつ多様な視点で検討を行うことで、より自立支援・重度化予防につながる支援内容を目指して開催される地域ケア会議へ参加をしました。個別課題の検討を積み重ねることで、地域の共通課題を把握し、地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくりにつなげています。

会議の参加者：地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、居宅サービス事業所
理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士、薬剤師、社会福祉協議会
福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所 等

令和2年10月22日 第1回地域ケア会議 参加者13人

令和2年12月24日 第2回地域ケア会議 参加者14人

令和3年3月23日 第3回地域ケア会議 参加者11人

3) 地域介護予防活動支援事業(町受託事業)

地域におけるネットワークの構築、介護予防の知識や方法を地域に普及する人材育成及び介護予防に資する地域組織(サロンや認知症カフェ等)の支援等を実施しました。

8地区1団体24回 参加者延べ417人

(令和元年度：21地区1団体40回 参加者延べ861人)

認知症カフェ運営支援(グリーンカフェ)2回 参加者延べ21人

(令和元年度：2箇所11回 参加者延べ190人)

4) 社会福祉法人連携協議会の運営

町と社会福祉法人の福祉避難所の設置に向けて、連携協議会の事務局である本会が調整をしました。

岡垣町内社会福祉法人連携協議会(R2.1発足)

参加法人 社会福祉協議会(会長・事務局)、日本傷痍者更生会(副会長)
岡垣睦福社会、つつみ会、局会、高章会(監事)、いわき福社会

作業部会：令和2年9月30日

内 容 ・社会福祉法人連携協議会について
・各法人の地域貢献の取り組みについて
・福祉避難所について

11月：福祉避難所の運営に関するアンケートを実施しました。

作業部会：令和3年2月19日

内 容 ・福祉避難所について
・お互いさま命のネットワーク活動について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、役員会議や研修会を中止しました。

2. 地域福祉を支える「ひと」づくり

地域福祉の主役は、地域の人たちです。子どもから高齢者まで、地域のすべての人たちが地域福祉の担い手としての自覚を持ち、「お互いさま」の心で支えあい、助け合う人づくりを進めました。

また、地域の身近な支援者である民生委員・児童委員の活動を支援し、ボランティアや地域の「お世話焼きさん」など地域福祉を推進する「ひと」づくりを進めました。

(1) 福祉のこころを育む意識の醸成と啓発

【具体的な取り組み】

- 地域と学校の連携体制の推進
- 福祉教育の推進
- 認知症への理解の促進
- 障害のある人の差別解消の推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 学校と連携し、児童を対象に福祉教育を実施しました。

【主な事業】

1) 福祉体験講座（学校・地域）の実施

他人への思いやりや、やさしい心を育むことを目的に、小・中学校等と連携し、福祉教育を実施しました。ウィルチェアラグビー（車いすラグビー）体験講座では、ウィルチェアラグビーの現役選手である田原氏を講師として迎え、障害者スポーツを体験しました。

○福祉体験講座（車いす体験、アイマスク体験等）

内浦小学校 4年生（1クラス）	1日： 3コマ	参加者	10人
吉木小学校 4年生（2クラス）	1日： 4コマ	参加者	47人
海老津小学校 4年生（3クラス）	3日：10コマ	参加者延べ	230人
山田小学校 4年生（3クラス）	2日： 6コマ	参加者	106人

○ウィルチェアラグビー体験講座

内浦小学校 4年生（1クラス）	1日： 2コマ	参加者	12人
吉木小学校 4年生（2クラス）	1日： 4コマ	参加者	48人
海老津小学校 4年生（3クラス）	1日： 5コマ	参加者	117人
山田小学校 4年生（3クラス）	1日： 5コマ	参加者	107人

○点字体験

内浦小学校 4年生（1クラス）	1日： 2コマ	参加者	10人
海老津小学校 4年生（3クラス）	2日： 6コマ	参加者	110人

○福祉教育読本「ともに生きる」配布

町内小学4年生、5年生を対象に、福祉を身近なものとしてとらえ、ともに生きる大切さを学習するための副読本として配布しました。（福岡県社協作成）

配布数 580冊

2) 認知症サポーター養成講座の実施

認知症を正しく理解し、地域でサポートができる人材づくりの講座を、行政と協働し中学生等を対象に開催する予定でしたが、緊急事態宣言が発出されたことにより中止しました。

○認知症ケア地域推進事業

(2) 地域活動を支える担い手の育成

【具体的な取り組み】

- 民生委員・児童委員の活動への支援
- 地域福祉活動を担う人材の育成

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 民生委員児童委員協議会の事務局として、各委員との連携を深め、その取り組みを支援しました。
- 地域福祉に関する研修会や講座を開催し、人材育成に取り組みました。

【主な事業】

1) 岡垣町民生委員児童委員協議会との連携強化

社協と民児協とは、地域福祉を展開していく上で協力が不可欠であり、民児協との連携を強化するため、社協が民児協の事務局を担い支援しました。

2) 地域人材育成事業（町受託事業）

地域包括ケアシステムの構築に向け、すべての住民が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができるよう、住民に身近な圏域において、自らが地域福祉の担い手として主体的に行動する人材育成を図ることを目的に、全6回の地域人材育成講座を実施しました。

第1回 令和2年8月29日 いこいの里 参加者27人
講演：『聴くことのチカラ』～出番と役割のある地域をつくる～
講師：日本ソーシャルコーチ協会 富岡郁雄氏

第2回 令和2年9月26日 いこいの里 参加者37人
講演：「みんなでつくる新しいサロンの形」～コロナに負けない！みんなの工夫～
講師：龍王団地区サロン、手野区ニコニコふれあいサロン区民

第3回 令和2年10月31日 いこいの里 参加者46人
講演：「孤独死防止のために、今私たちにできること」
講師：特定非営利活動法人 孤立防止センター 速水靖夫氏

第4回 令和2年11月28日 いこいの里 参加者35人
講演：「誰もが支え合えるまちづくり」
講師：九州大学大学院 人間環境学研究院 教授 高野和良氏

第5回 令和3年3月13日 いこいの里 参加者19人
講演：「岡垣町の未来を創る」
講師：SDGs de 地方創生公認ファシリテーター眞山 昌 氏

第6回 令和3年3月27日 いこいの里 参加者41人
講演：「新たな日常と地域福祉活動」～社会的な孤立を防ぐために～
講師：九州大学大学院 人間環境学研究院 教授 高野和良氏

3) 地域人材育成事業（社協）

介護の担い手を増やすことを目的に研修を実施しました。

研修名：岡垣町訪問型サービスA 従事者養成研修

令和3年3月6日、7日 いこいの里 参加者6人

(3) ボランティア活動の推進

【具体的な取り組み】

■ボランティアの育成、支援

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■福祉ボランティア活動の支援を行いました。

1) 福祉ボランティアの養成・支援

社協に登録している福祉ボランティア17団体に対し、福祉ボランティア活動を支援しました。

○中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会ボランティア研修会
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。

○ふくおか“きずな”フェスティバル

令和3年3月1日～3月31日

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、WEB開催のみ。

講演 「コロナ禍で必要な認知症対策」

講師 音成脳神経内科・内科クリニック 医院長兼理事長
久留米大学医学部臨床教授 音成龍司 氏

実践報告

- ・「コロナ禍での高齢者支援 ～ふれあい10分コール～」
発表者 傾聴ボランティアそら（新宮町社会福祉協議会）

3. 地域でともに生きる「環境」づくり

全ての人が年齢や状況を問わず、その人のニーズに合った支援が受けられるよう全世代・全対象型の地域包括支援体制づくりが求められています。支援を必要とする人が、必要とするときに、適切なサービスを利用できるように、きめ細かな情報提供や相談支援体制の充実を図るとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる環境の整備に努めました。

また、地域福祉を推進するため、地域の人たちが地域の色々な場所で、様々な関りを持ち交流できるよう地域福祉の拠点づくりを継続支援します。

(1) きめ細かな情報提供と相談支援体制の充実

【具体的な取り組み】

- 相談支援体制の充実
- 広報広聴機能の強化

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 相談については、他職種・他機関と連携し困りごとの解決を図りました。
- 全国の先進事例や町内での優れた取り組みを把握し、社協だよりやホームページを活用し情報発信に努めました。

【主な事業】

1) 相談支援体制の充実

社協は、現在の法律や制度で定められた福祉サービスに対する福祉課題や、高齢者の買い物など日常生活上起こり得る生活課題について、地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制の構築に取り組みました。

○総合福祉相談窓口

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、国や県、町の動向を把握し、法令や制度を網羅した手引きを活用し、すべての職員が対応できるように、職員間の情報共有に努めました。

総合福祉相談窓口（毎月2回・いこいの里）、電話受付等

総合福祉相談 936件

○法律相談

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、職員の資質向上や分かりやすい情報提供に努め、法律相談を開催しました。

法律相談（弁護士 16回：奇数月1回偶数月2回・いこいの里）

法律相談 69件 ※積雪等により2回中止

2) 広報広聴機能（社協だより・ホームページ）の強化

○社協だよりの充実

社協の広報紙社協だよりを町内全戸に配布し、社協の事業や地域の福祉活動等の記事を

掲載し、事業の普及・啓発に努めました。

発行総部数 83,400部（6回／5・7・9・11・1・3月：全戸配布 13,900部）

○広報広聴委員会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、広報広聴委員会を中止しました。なお、広報広聴委員会委員から意見聴取を行い、社協だよりの紙面の充実を図りました。

○社会福祉協議会ホームページ

社会福祉協議会の活動内容やいこいの里入浴施設のPR等、掲載内容の充実を図るとともに常に新しい情報を公開するように努めました。

（2）福祉サービスの充実と基盤の整備

【具体的な取り組み】

■いこいの里の運営 ■地域福祉を支える財源等の確保

■各種福祉関連計画に掲げたサービスの提供

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■共同募金運動を推進し、地域福祉のために積極的に活用しました。

■従来分野では対応できない地域の問題や、制度の狭間にある複雑な課題に対し、地域での生活支援体制を行政と協議しました。

【主な事業】

1) いこいの里の運営（指定管理期間：平成28年～令和2年）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館や利用制限等の影響により、大幅に利用者が減員しました。

《いこいの里施設利用状況》

区分 \ 年度	令和2年度	令和元年度
施設利用者（利用率）	62,620人（51.7%）	110,542人（55.8%）
ふれあい館利用者 （浴室施設利用者は除く）	14,673人	20,104人
浴室施設利用者	23,632人	41,804人

利用率：使用日/開館日

2) 共同募金運動の推進

共同募金会岡垣町支会と連携・協力し、共同募金運動を推進しましたが、新型コロナウイルスの影響により、昨年度より募金が減額しました。

募金実績 共同募金 5,234,770円（令和元年度 5,723,241円）

歳末募金 478,000円（令和元年度 478,000円）

3) 介護保険等サービスの質の向上

①居宅介護等事業

介護保険制度において、要介護等と認定された高齢者や障害者総合支援法における障害支援区分の判定を受けた利用者に対して、質の高いサービスの提供を行うため、職員を対象とした研修会の開催や資格取得のための勉強会などを積極的に行いました。

訪問介護事業では、障害のある人への支援が増えたことで、増収となりました。

居宅介護支援事業は、介護予防支援利用者が減少しましたが、居宅介護支援については、加算の算定が多かったため、収入に大きな変化はありませんでした。

収入 居宅介護支援事業 12,851,850 円（令和元年度：12,843,020 円）
 訪問介護等事業 37,804,406 円（令和元年度：34,602,445 円）

《介護保険事業利用状況》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R1
訪問介護事業	54	54	54	53	54	55	53	50	49	49	46	54	625	638
介護予防・日常生活 支援総合事業	63	65	65	64	64	62	69	71	71	69	69	67	799	791
居宅介護支援 事業	66	67	70	69	68	66	66	68	70	67	66	68	811	808
介護予防支援 事業	14	15	16	15	17	17	17	19	20	19	19	19	207	247
延利用者数	197	201	205	201	203	200	205	208	210	204	200	208	2442	2,484

②障がい者の自立に関する取り組み

居宅介護・重度訪問介護事業では、障害のある人等がその有する能力に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように訪問介護員（ホームヘルパー）が入浴、排せつ、食事の介護、その他の生活全般にわたる援助を行いました。同行援護事業では、常にサービスを提供できる体制を整えています。

《障害者総合支援法に基づく居宅介護等事業利用状況》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R1
居宅介護等事業	8	8	10	9	9	12	12	12	13	14	12	11	130	108
地域生活支援事業	0	0	0	1	1	1	2	2	2	2	2	3	16	14
同行援護事業	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	2

③短期訪問介護事業

介護保険制度で自立と認定された人や介護保険制度外での支援が必要な人等へ訪問介護サービス（ホームヘルプサービス）を実施しました。

《短期訪問介護事業》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R1
短期訪問介護事業	13	17	11	14	14	16	18	19	19	16	14	19	190	198

4) 在宅福祉サービスの充実

- ・送迎サービス事業
- ・入浴サービス事業
- ・福祉機器貸与事業
- ・福祉車両貸与事業
- ・コミュニティ車両貸与事業
- ・配食サービス事業（町受託事業）
- ・手話通訳者派遣事業（町受託事業）

○送迎サービス事業

低所得で車いすや常時つえが必要な高齢者や障がい者の福祉向上及び社会参加の促進・支援として、送迎ボランティアの協力のもと送迎サービス事業を実施しました。

《送迎サービス利用状況》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R1
送迎回数	19	0	1	10	12	9	14	9	17	16	16	23	146	346
ボランティア活動人員 (延)	32	0	1	32	32	32	41	30	43	43	41	56	383	429

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年4月9日から6月30日まで中止しました。

○入浴サービス事業

利用者は、ありませんでした。

○福祉機器貸与事業

福祉機器を貸与することで、在宅の高齢者や障害のある人等に日常生活の利便性の向上が図れるように支援しました。

《福祉機器貸与延台数》 延 77台

車いす	57台	ベッド	6台	歩行器(車)	3台
ポータブルトイレ	2台	シャワー椅子	1台	介助バー	4台
入浴用踏み台	2台	シャワーキャリー	1台	オーバーテーブル	1台

○福祉車両貸与事業

高齢や障害等のため車いすを使用しなければ外出ができない人等の福祉の増進を図るため、社協所有の福祉車両(車いす対応)の貸与事業を実施しました。

4回 (令和元年度:4回)

○コミュニティ車両貸与事業

ボランティア活動や地域コミュニティ活動を支援するため、軽トラックの貸与事業を実施しました。

1地区・1団体 6回 (令和元年度:3地区・4団体:21回)

○配食サービス事業(町受託事業)

調理・配食ボランティアやシルバー人材センター等への業務委託により、週5回(火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日)の253日配食サービス事業を実施しました。

《配食サービス利用状況》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R1
配食日数	22	22	21	23	18	22	23	20	20	20	20	22	253	254
配食数	2,306	2,299	2,230	2,321	1,789	2,201	2,310	1,983	1,931	1,669	1,745	1,963	24,747	25,897
平均配食数	105	105	106	101	99	100	100	99	97	83	87	89	98	102

○手話通訳者派遣事業(町受託事業)

聴覚障がい者、音声・言語障がい者の日常生活や社会生活におけるコミュニケーションを支援するために、手話通訳者を派遣しました。

《コミュニケーション支援状況》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R1
利用者数	7	4	5	7	5	6	7	7	8	4	9	8	77	92
派遣者数	6	4	5	7	5	6	6	7	8	4	9	8	75	86

(3) 人にやさしい生活環境づくり

【具体的な取り組み】

- 地域福祉の活動拠点づくり
- 移動手段の確保
- ユニバーサルデザインの推進と啓発

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 地域での有償サービスや、地域と事業所の連携による新たな移動支援サービスの取り組みを行政と協議しました。

【主な事業】

1) 地域福祉の活動拠点づくり

地域共生社会の実現に向け、戸切校区コミュニティ運営協議会では、子どもから大人までだれでも利用できる地域交流拠点整備に向けた検討が進められています。住民主体の地域福祉を推進するための拠点づくりを継続して支援します。

2) 移動支援サービスの検討・支援

○送迎サービス事業の総合事業(介護保険制度)への移行について、行政と協議しました。

4. 誰もが安心して暮らせる「まち」づくり

災害は、ある日突然に起こるもので、日常の備えが欠かせません。特に災害発生時は、地域のチカラ（互助）が重要です。そこで、災害時や緊急時に適切に対応できるよう、支援が必要な人の把握や地域での見守り体制を強化しました。

また、関係機関と連携し、生活に困窮した人や制度の対象とならない制度の狭間にある人への支援や、虐待防止に関する施策の推進や成年後見制度の普及に努め、権利擁護を必要とする人に適切な支援を行いました。

(1) 災害時・緊急時の助け合いのしくみづくり

【具体的な取り組み】

- 避難行動要支援者支援体制の確立
- 自主防災組織の育成
- 災害ボランティアセンターの設置
- 福祉避難所の整備

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 福祉的な配慮が必要な場合は福祉避難所を設置し、適切に運営しました。

【主な事業】

1) 災害ボランティアセンターの設置・運営訓練の実施

災害ボランティアセンターの設置については、町と協定を締結しています。

福岡県総合防災訓練が中間市で開催されるため、災害ボランティアセンター運営訓練に参加する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となり運営訓練が実施できませんでした。

2) 災害時の広域的な連携体制の強化

災害時において、効率的・効果的に災害ボランティア活動などの被災者支援活動を行えるように、広域的な災害支援協定を締結し、連携しています。

○岡垣町社会福祉協議会と公益社団法人ひびき成年会議所との災害時相互協力協定 (H30.2)

○中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会災害時相互支援協定 (H30.8)

○中間・遠賀地区社会福祉協議会と公益社団法人ひびき青年会議所の災害時相互協力協定

(H30.8)

○岡垣町社会福祉協議会・津幡町社会福祉協議会災害時相互応援協定（H31.3）

○中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会と遠賀ロータリークラブとの災害時相互協力協定（R2.3）

3) 福祉避難所の設置・運営

福祉避難所については、いこいの里が災害ボランティアセンターの拠点となるため、行政と福祉避難所の設置・運営について協議しました。

(2) 自立を支えるための支援

【具体的な取り組み】

■生活に困窮した人の自立支援 ■更生保護活動の支援

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■ふくおかライフレスキュー事業に参加し、生活困窮者の自立を支援するネットワークづくりに取り組みました。

■福岡県社会福祉協議会が実施する生活福祉資金貸付事業を通じ、生活困窮者の社会的、経済的自立を支援できるよう努めました。

【主な事業】

1) ふくおかライフレスキュー事業（実施主体 福岡県社協）

ふくおかライフレスキュー事業は、高齢者の介護・障害児者への支援・児童の養育等、さまざまな専門性を備え長年に渡り地域で福祉を支えてきた社会福祉法人が、地域の課題に向き合い、訪問・相談を通じて、困りごとが解決できるよう支援を行う社会貢献の取り組みです。岡垣町からは2法人4事業所が参加し、地域の困りごと解決に取り組みました。参加法人 社会福祉協議会、日本傷痍者更生会（恵の家、希望舎、報恩母の家）

実績 ふくおかライフレスキュー事業 1件（令和元年度：1件）

参加法人連絡会

令和2年9月18日 更生会にじの郷 出席10人（恵の家、希望舎、報恩母の家、社協職員）

令和2年11月18日 更生会にじの郷 出席5人（恵の家、希望舎、報恩母の家、社協職員）

令和3年3月16日 いこいの里 出席5人（恵の家、希望舎、報恩母の家、社協職員）

2) 生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業）

景気低迷や新型コロナウイルス感染症が原因による離職や母子世帯等で生活に困窮している方等の相談を行い、貸付要件に該当している場合は、生活福祉資金の貸付により、自立更生の支援をしました。

相談件数：42件（令和元年度：23件）

貸付件数：19件（令和元年度：11件）

◎緊急小口資金：12件 1,050,000円

内訳（生保支給までのつなぎ：11件、その他：1件）

◎教育支援資金：4件 2,755,000円

内訳（教育支援費：4件、就学支度費：4件）

◎福祉資金：3件 425,000円

内訳（生活保護受給者生活必需品：2件、技能取得費等の支度に必要な経費：1件）

3) 生活福祉資金（緊急小口資金、総合支援資金）特例貸付事業（県社協受託事業）

新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業等により、一時的又は継続的に収入が減少した世帯を対象に、生活福祉資金貸付制度における総合支援資金（生活支援）及び福祉資金（緊急小口資金）について特例措置が設けられ、資金貸付の相談窓口として、令和2年3月23日から対応しました。

相談件数：788件

（内訳）

緊急小口資金：421件

総合支援資金：231件

総合支援資金延長貸付：103件

総合支援資金再貸付：33件

貸付件数：410件 148,770,000円

（内訳）

緊急小口資金： 200件 37,420,000円

総合支援資金： 149件 79,800,000円

総合支援資金延長貸付： 49件 25,650,000円

総合支援資金再貸付： 12件 5,900,000円

（3）権利擁護を必要とする人への支援

【具体的な取り組み】

■成年後見制度の普及と利用促進 ■金銭管理に不安を抱える人への支援

■死後事務の支援 ■虐待やDV被害の防止対策

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■法人後見事業の取り組みについての検討を行いました。

■福岡県社会福祉協議会が行う日常生活自立支援事業を通して、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などを行いました。

■ずっと安心プラン事業（葬儀納骨残存家財処分などの死後事務委任）の充実に努めました。

【主な事業】

1) 法人後見事業の検討

身寄りのない高齢者等の権利擁護のため、日常生活自立支援事業の契約者に対し、引き続き成年後見人等になることで安心と信頼に基づく支援が継続して実施できるように、法人後見事業の実施に向けた関係課・関係機関等との協議を行いました。

2) 日常生活自立支援事業（県社協受託事業）

認知症、知的障害、精神障害の方を対象に、本人の自立に向けて福祉サービス利用援助や日常的な金銭管理などの支援を行いました。今後、認知症高齢者など対象者の増加が見込まれるため、関係機関等との情報共有を含め本制度の周知啓発を行いました。

・日常生活自立支援事業契約者 20人、支援件数延べ 299件

（令和元年度：20人 支援件数延べ 302件）

3) ずっと安心プラン事業

高齢者や障害のある人などが安心して生活できるよう、社協が事前に預託金を預かり、葬儀・家財処分などのサービスや定期的な見守りサービス・入退院等の支援を行うずっと安心プラン事業を実施しました。また、終活に関する専門相談窓口設置や町の空き家対策

と連動した終活セミナー開催、県外視察の受入れなど、事業PRに取り組みました。

- ・契約者3人、相談延べ件数64件（令和元年度：延べ57件）
- ・終活セミナー（全3講座）いこいの里 講師 終活パートナー九州 真武純哉氏
第1回 令和2年12月16日 いこいの里 参加者61人
講演 「想いをつなぐ、相続と遺言」
その他 都市建設課「みんなで考えよう空き家問題」
第2・3回 令和3年3月31日 参加者29人
講演 「私にピッタリの終の棲家は」「家族に合った墓じまい」
- ・ずっと安心プラン事業視察受入 11月27日 いこいの里
佐賀県社会福祉協議会・武雄市社会福祉協議会職員

4. 法人としての取り組み

【具体的な取り組み】

- 行政、関係機関・団体との連携強化
- 役員体制および事務局体制の強化

○社会福祉協議会役員体制の強化

研修会等への参加については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

○社会福祉協議会事務局体制の強化

職員の資質の向上や業務量に応じた適切な職員の配置など、より一層の事務局体制の強化を図るとともに、多様な福祉ニーズに対応できるように、職員の自主的な勉強会や情報交換会を開催しました。

社協の事業展開を迅速かつ効率的に行うため、職員定例会を開催しました。

○その他の事業

社協会長表彰

社会福祉の増進に努め、その功績が顕著な人に対し、表彰状及び感謝状を贈呈しました。

令和2年10月10日 いこいの里

被表彰者 22人1団体

社会福祉事業特別功労者3人

民生委員・児童委員特別功労者2人

社会福祉事業協力者16人

特別表彰（寄附）1人1団体

助成事業

児童養護施設や要援護児童等に対し、助成金を交付しました。

《活動助成金交付内容》

- ・児童養護施設報恩母の家（交流会等）
- ・自転車通学生ヘルメット購入費補助
岡垣中学校52人、岡垣東中学校73人
- ・修学旅行費補助（要保護・準要保護等の児童・生徒を対象）
岡垣中学校33人、岡垣東中学校16人
内浦小学校2人、吉木小学校5人、海老津小学校12人、
山田小学校11人、戸切小学校4人

・特別支援学級運営費補助

岡垣中学校 11 人、岡垣東中学校 8 人

吉木小学校 11 人、海老津小学校 19 人、山田小学校 18 人、戸切小学校 1 人

・通級指導学級運営補助

岡垣中学校 10 人、海老津小学校 11 人

歳末たすけあい事業

在宅で生活している重度の障がい者（児）や施設入所者に、歳末見舞金を配布しました。また、ひとり暮らし高齢者等へ年賀状を送る事業を実施する自治区（要申請）を対象に、年賀はがきを配布しました。

在宅の重度障がい児・者（歳末見舞金）	44 人
障害者支援施設「希望舎」入所者（歳末見舞金）	47 人
障害者支援施設「こすもす園」入所者（歳末見舞金）	48 人
共同生活援助施設「あゆみヶ丘」入所者（歳末見舞金）	27 人
児童養護施設「報恩母の家」入所者（歳末見舞金）	58 人
年賀はがきの配布（26 自治区）	1,144 枚

○各会議開催状況

理事会・評議員会開催状況

<理事会>

第 1 回	6月9日	議案第 1 号	監事選任候補者の推薦について
		議案第 2 号	令和2年度社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会会長表彰及び感謝の対象者の決定について
		議案第 3 号	令和元年度事業報告について
		議案第 4 号	令和元年度収入支出決算
		議案第 5 号	第 1 回評議員会（定時評議員会）の開催について
第 2 回	8月25日	議案第 6 号	評議員選任候補者の推薦について
		議案第 7 号	第 1 回評議員選任・解任委員会の開催について
		議案第 8 号	令和2年度補正予算（第 1 号）
		議案第 9 号	第 2 回評議員会の開催について
第 3 回	11月25日	議案第 10 号	職員給与規程の一部を改正する規程
第 4 回	2月17日	議案第 11 号	嘱託及び臨時職員就業規程の一部を改正する規程
		議案第 12 号	非常勤ヘルパーの雇用等に関する就業規則の一部を改正する規則
		議案第 13 号	令和2年度補正予算（第 2 号）
		議案第 14 号	第 3 回評議員会の開催について
第 5 回	3月17日	議案第 15 号	役員等賠償責任保険契約について
		議案第 16 号	令和3年度事業計画について
		議案第 17 号	令和3年度予算
		議案第 18 号	令和3年度福祉基金の取り崩しについて
		議案第 19 号	第 4 回評議員会の開催について

<評議員会>

第1回	6月25日	議案第1号	監事の選任について
		議案第2号	令和元年度事業報告について
		議案第3号	令和元年度収入支出決算
第2回	9月4日	議案第4号	令和2年度補正予算(第1号)
第3回	2月25日	議案第5号	令和2年度補正予算(第2号)
第4回	3月26日	議案第6号	令和3年度事業計画について
		議案第7号	令和3年度予算